

転職活動者調査 賃金への関心は高まる 転職後の年収上昇を見越せることも重要視

転職時に年収が下がっても、将来的に上がる可能性があればよいと考える個人も
会社の将来性不安だけでなく、責任ややりがい、成長環境を求め転職活動始める傾向

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）は転職活動中の個人に調査を実施しました。社会の変化が激しくなる中、転職活動をしている個人は実際にどのような観点で活動をしているのかを明らかにします。特に、昨今関心が高まっている賃金への考え方も調査しており、金銭報酬は大切である一方、転職時の年収が同水準、もしくは下がっても、将来的に年収が上がる可能性があれば転職を検討できる、という結果も得られました。調査期間は2022年12月13日（火）～12月14日（水）です。以下、1,040人の回答結果の概要を報告します。

トピックス

1. 転職活動者の仕事の満足度では、収入面の満足・計は28.5%に対して、不満・計は45.2%。
2. 転職時に現在より高い年収を希望する人は多い。転職後将来的に年収が上がる可能性も重要視
3. 転職を考えたきっかけは、賃金や労働条件に関するものよりも、成長できる環境で働きたい、より責任ややりがいのある仕事をしたい、といった前向きなものの方が高い
4. 応募の際に重視する点では「給与水準が高い」「やりたいことを仕事にできる」「プライベートの時間を確保できる」が高い
5. 【解説】中長期を見据えた転職活動者に、「持続可能な賃金上昇の可能性とキャリアの機会」をどう提供できるか

■HR 統括編集長 藤井薫解説サマリー：

今回の調査結果からは、転職活動者が短期の年収アップ（賃金上昇）だけでなく、中長期のキャリアを見据えて、転職先を探していることが明らかになりました。

「より責任とやりがいのある成長環境で、やりたい仕事に没頭し、プライベートの時間を大切にしながら、やりたいキャリアを描く。そのために年収が一旦下がっても、将来上がる可能性があれば転職したい」…。

このように考える転職活動者が4割近く存在することは、賃金の多寡が採用の成否を決すると諦めている企業にとって、見逃してはならない事実だと思います。転職活動者にとって金銭報酬は重要ですが、それ以外にも、機会報酬（仕事や働き方の選択権）、成長報酬（ジョブアサイン、リスキリング）、意味報酬（パーパス、貢献実感）といった、多様な報酬が不可欠です。

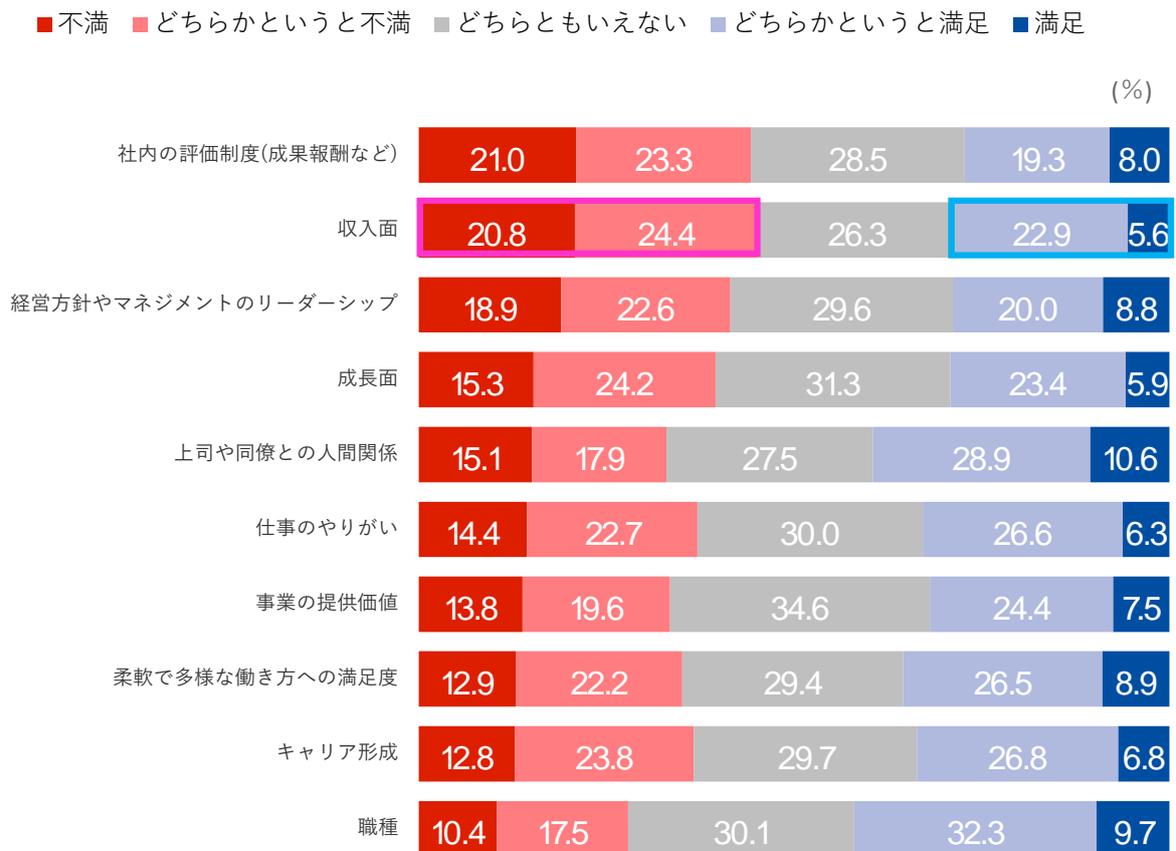
中長期を見据えた転職活動者に、「持続可能な賃金上昇の可能性とキャリアの機会」をどう提供できるか。円滑な労働移動を目指す日本型雇用にとっても、再興の好機と言えるでしょう。



1. 転職活動者の仕事の満足度では、収入面の満足・計は 28.5%。不満・計は 45.2%

転職活動者に、現在の主たる仕事の満足度について、それぞれの項目について聞いたところ、不満が最も高かったのは「収入面」となり、不満・どちらかというとな不満を合わせた『不満・計』は 45.2%だった。また、「収入面」にも関係する「社内の評価制度（成果報酬など）への満足度」は 44.3%で、「収入面」に次いで不満・計が高い結果となった。

Q 現在の主たるお仕事の満足度について教えてください (n=1,040)



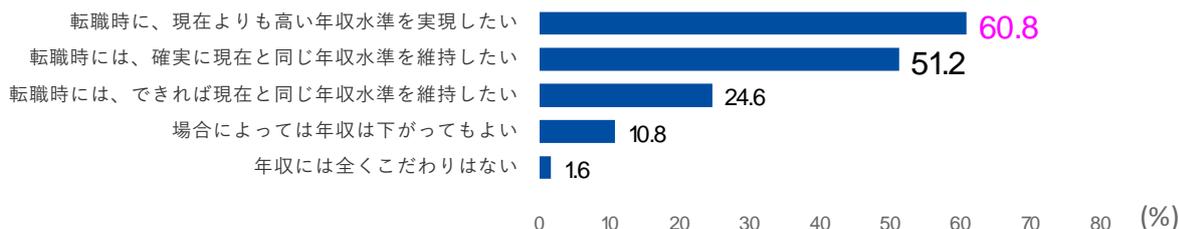
2. 転職時に現職より高い年収を希望する人は多い。転職後将来的に年収が上がる可能性も重要視

転職活動者に聞いた転職時に希望する年収水準は、現在よりも高い年収水準を希望する割合が60.8%となった。



今回の転職活動での、転職時の年収水準の希望について (n=1,040)

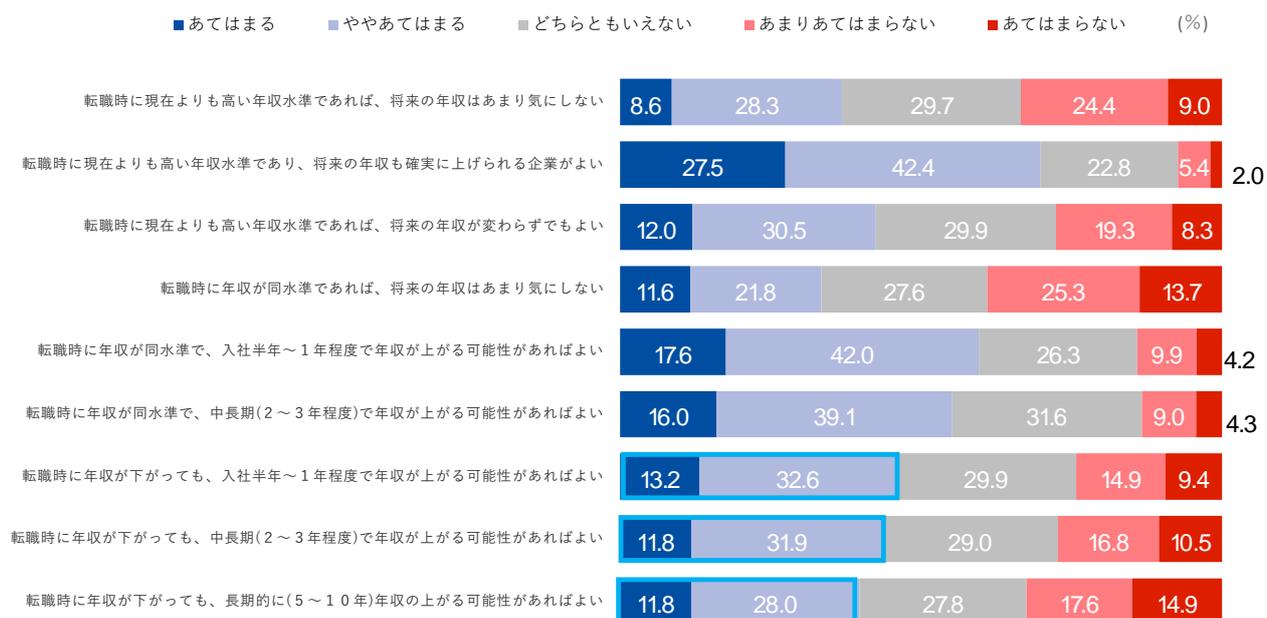
(複数回答 あてはまるもの2つまで)



ただし、聞き方を変えると変化が見てとれた。「転職時の年収水準」と「将来の年収水準」について、考えに近いものを聞いたところ、「転職時に年収が下がっても、入社半年～1年程度で年収が上がる可能性があればよい」のあてはまる・ややあてはまるを合わせた『あてはまる・計』は45.8%に上った。また、中長期（2～3年程度）や長期（5～10年）という期間でも上がる可能性があればよいと考える方もそれぞれ43.7%、39.8%となっており、目の前の年収だけではなく、しっかりと将来にわたってキャリアを積めて、年収が上がる見込みがあるのかを重視する転職活動者の考えが見てとれた。なお、以下の結果に年収帯による大きな差は見られなかった。



今回の転職活動での、「転職時の年収水準」と「将来の年収水準」について、最もお考えに近いものをお選びください (n=1,023)

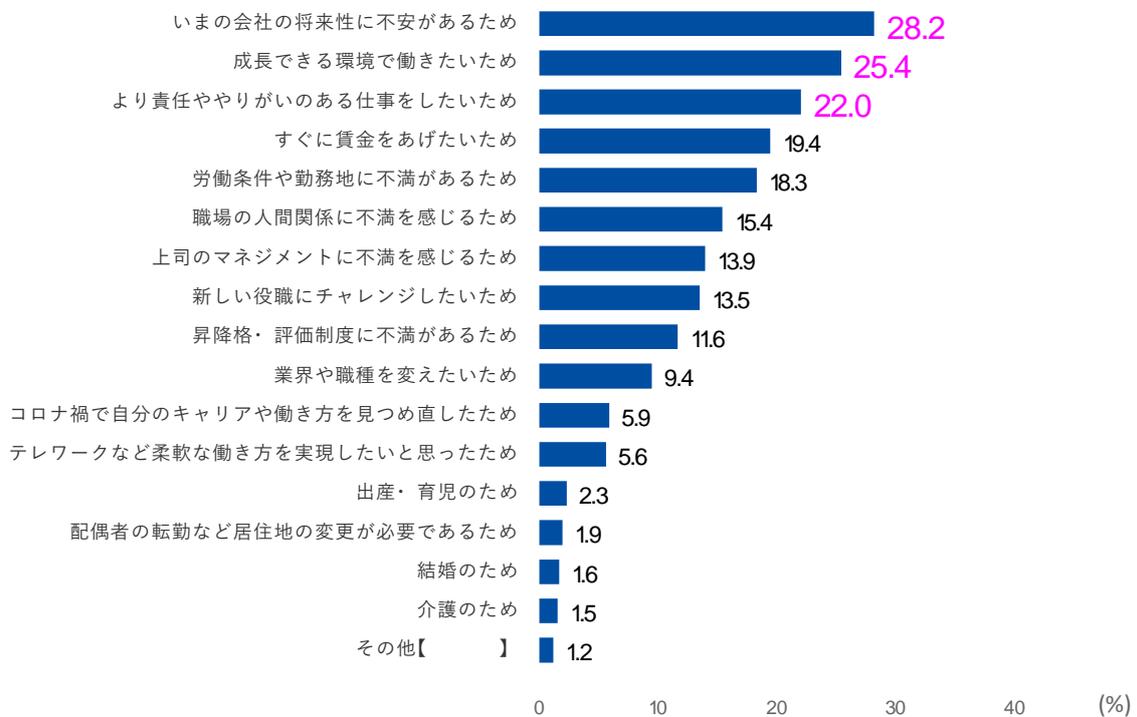


3. 転職を考えたきっかけは、賃金や労働条件に関するものよりも、成長できる環境で働きたい、より責任ややりがいのある仕事をしたい、といった前向きなものの方が高い

転職を考えたきっかけでは、「いまの会社の将来性に不安があるため」28.2%、「成長できる環境で働きたいため」25.4%、「より責任ややりがいのある仕事をしたいため」22.0%の順に高い結果となった。会社の将来性への不安が高まっている中、責任ややりがい、成長環境を求めてといった前向きなきっかけも多く、個人が賃金だけでなく自分のキャリアを考え動き始めていると考えられる。

Q あなたが転職を考えるようになったきっかけを教えてください (n=1,040)

(複数回答 特に重要だと思うもの3つまで)



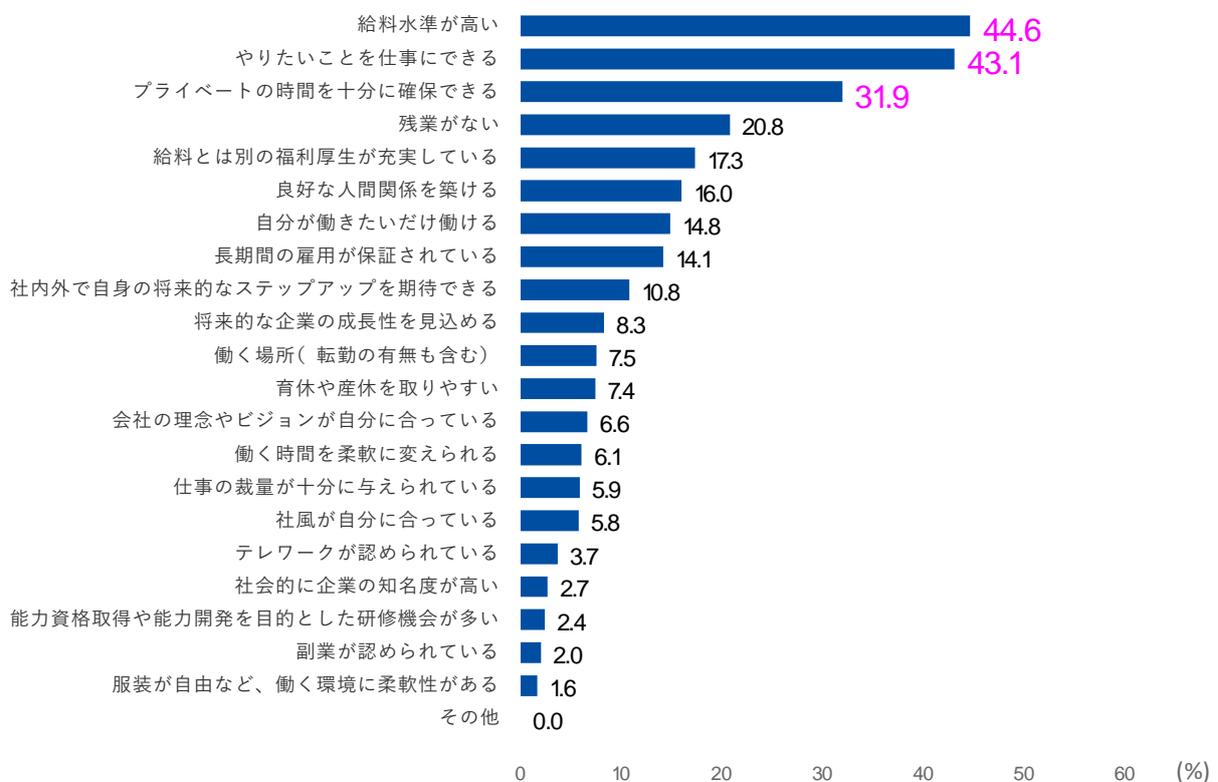
4. 応募の際に重視する点では、「給与水準が高い」「やりたいことを仕事にできる」「プライベートの時間を十分に確保できる」が高い

企業へ応募する際に重視する点では、「給与水準が高い」44.6%、「やりたいことを仕事にできる」43.1%、「プライベートの時間を十分に確保できる」31.9%の順に高い結果となった。給与に関する希望は高いが、同じくらい「やりたい仕事を（選択）できるか」という点が重視されていると言える。また、プライベートの時間を重視する、暮らしと仕事の間を見つめなおす個人は今後も増えるだろう。



企業へ応募する際に重視する点を教えてください。(n=1,040)

(複数回答 特に重要だと思うもの3つまで)



5. 【解説】

今回、転職活動者 1,040 人に「現在の仕事の満足度」「転職時に希望する年収水準」「転職を考えたきっかけ」「応募の際に重視するポイント」について聞きました。

まず見えてきたのは、「年収アップ（賃金上昇）への関心の高さ」です。

【現在の仕事への満足度】収入面で不満（不満・計 45.2% 最高値）

【転職時の希望年収水準】現在より高い水準を希望（60.8% 最高値）

【応募の際に重視する点】給与水準が高い（44.6% 最高値）

労働移動の円滑化とリスクリング、構造的な賃上げを三位一体で進める政府の動きに呼応するように、転職活動者は、転職による年収アップ（賃金上昇）への高い関心を示しています。さらに今回注目したいのは、上記以外で高い値を示した次の回答です。

【現在と将来の年収水準】※（ ）内数値はいずれも あてはまる・計

転職時に下がっても、入社半年～1 年程度で上がる可能性があればよい（45.8%）※

転職時に下がっても、中長期（2～3 年程度）で上がる可能性があればよい（43.7%）※

【転職を考えたきっかけ】

成長環境で働きたい 25.4%、より責任ややりがいのある仕事をしたい（22.0%）

【応募の際に重視する点】やりたいことを仕事にできる（43.1%）

プライベートの時間を十分に確保できる（31.9%）

これらの調査結果からは、転職活動者が短期の年収アップ（賃金上昇）だけでなく、中長期のキャリアを見据えて、転職先を探していることが明らかになりました。

「より責任とやりがいのある成長環境で、やりたい仕事に没頭し、プライベートの時間を大切にしながら、ありたいキャリアを描く。そのために年収が一旦下がっても、将来上がる可能性があれば転職したい」…。

このように考える転職活動者が 4 割近く存在することは、賃金の多寡が採用の成否が決すると諦めている企業にとって、見逃してはならない事実だと思います。転職活動者にとって金銭報酬は重要ですが、それ以外にも、機会報酬（仕事や働き方の選択権）、成長報酬（ジョブアサイン、リスクリング）、意味報酬（パーパス、貢献実感）といった、多様な報酬が不可欠です。

中長期を見据えた転職活動者に、「持続可能な賃金上昇の可能性とキャリアの機会」をどう提供できるか。円滑な労働移動を目指す日本型雇用にとっても、再興の好機と言えるでしょう。

藤井 薫（ふじい かおる）

株式会社リクルート HR 統括編集長。『リクナビ NEXT』編集長。

プロフィール（略歴）1988 年リクルート入社以来、人材事業のメディアプロデューサーに従事。TECH B-ing 編集長、Tech 総研編集長、アントレ編集長、リクルートワークス研究所 Works 編集部、リクルート経営コンピタンス研究所を歴任。デジタルハリウッド大学客員教授、情報経営イノベーション専門職大学客員教授、千葉大学客員教員。厚生労働省・採用関連調査研究会の委員歴任。著書に『働く喜び 未来のかたち』（言視舎）。



◀ 調査結果を見る際の注意点 ▶

%表示の際に小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計値と計算値が一致しない場合があります

調査概要

- (1) 実施期間：2022年12月13日（火）～12月14日（水）
- (2) 調査対象：転職活動中の方
- (3) 回答人数：1,040人
- (4) 調査方法：インターネット調査

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人一人のライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.co.jp/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>